

# GLOBAL TIMES VOL.13

能勢高校のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の取組みは、最終年度である5年目となりました。活動は右図の通り4つの講座から構成されており、SG・GS基礎知識講座は全生徒が受講しています。

本年度はSG重点分野講座受講生である3年生は「マレーシア 経済発展と自然破壊」を課題研究に、1・2年生はSGH活動を継承したグローバルスタディー（GS）課題探究重点講座として、「ドイツ シュタットベルケを能勢町に活かす」を課題研究に掲げ活動しています。

Super  
Global  
講座

- 基礎知識講座
- 重点分野講座
- 英語特別講座
- 課題研究（海外研修）

**海外実態調査** 8月4日～9日に3年SG重点分野受講生と2年GS課題探究重点講座受講生がマレーシア サバ州へ、9月2日～7日に2年GS課題探究重点講座受講生がドイツ ブリロン市へ実態調査に行きました。また、来年1月17日～19日には2年GS課題探究重点講座受講生が、マレーシアへの修学旅行より早く現地を訪れ、サラワク州にて実態調査を行い、その後合流する予定です。

**成果発表・発信** 本校HPにて活動の様子を随時発信しています。ぜひ、ご覧ください。

- ・中間発表：11月1日（金） ささゆり学園にて
- ・最終発表：2月15日（土） 淨るりシアターにて

## ドイツ ブリロン海外実態調査報告

《能勢町・能勢分校連携 ドイツ視察研修》

### ● ドイツ視察に向けて ●

海外実態調査に向け、能勢町と能勢高校・豊中高校能勢分校は連携講座を行いました。多彩な講師を迎えることで町民と高校生の垣根を越え、能勢町の持続可能な町づくりについて考えるきっかけとなりました。

#### 能勢町との連携講座

- 第1回** 5月22日（水）「**パリスタから見た ドイツ人の環境問題への取組み**」  
講師：中村 靖彦氏（ドイツ在住パリスタ、DJ）
- 第2回** 6月5日（水）「**掛川市における日本版シュタットベルケの取組み**」  
講師：久保田 崇氏（静岡県掛川市 副市長）
- 第3回** 6月11日（火）「**能勢町にとってのSDGsとは**」  
講師：榎原 友樹氏（株）イー・コンザル 代表取締役）
- 第4回** 7月2日（火）「**ドイツ視察に向けて シュタットベルケの取組み**」  
講師：川又 孝太郎氏（環境省大臣官房 環境計画課長）

#### ドイツ視察事前準備特別講座

- 第5・6回** 7月20日（土）・8月19日（月）「**ドイツはどんな国？**」  
講師：Anja Sliwa 氏（甲南大学 ドイツ語講座講師）



中村氏



久保田氏



榎原氏



川又氏



アニヤ氏

（注）シュタットベルケ（STADT WERKE）とは…

ドイツにおける電気、ガス、水道、交通などの公共インフラを整備・運営する自治体に関わる公益企業（公社）のこと。シュタットベルケはドイツ語で直訳すると「町の事業」を意味する言葉。いま、日本の多くの自治体でこのシュタットベルケをお手本としたエネルギー事業を糸口に、地域の課題を解決し、地域活性化につなげようという動きが広がりつつあります。

### ● ドイツ ブリロン市へ ●

9月2日（月）～9月7日（土）の6日間、2年 GS 課題探究重点講座受講生4名がドイツで実態調査を行いました。

昨年より取組み、調査を進めてきたシュタットベルケの視察を目的とし、能勢町主催のもと、能勢町長、町職員の方々とともに能勢町・能勢分校連携視察団は、ドイツへ向かいました。

行程表	9月	午前	午後
	2日（月）	出国 関空→アムステルダム→デュッセルドルフ→ブリロン	
3日（火）	ブリロン市庁舎訪問		シュタットベルケ視察
4日（水）	ギムナジウム訪問・交流学习		ブリロンの森訪問・植樹 ブリロン郊外視察
5日（木）	ギムナジウム再訪・交流学习 ／ブリロン市庁舎再訪（能勢町）		デュッセルドルフ視察
6日（金）	帰国 デュッセルドルフ→アムステルダム→7日（土）関空着		

## 1日目

早朝、能勢町役場に集合し関西国際空港へ。11 時間半の長いフライトを経てオランダ・アムステルダム空港へ。ここでEUへの入国審査を終え、国内線へ乗り換え、ドイツ・デュッセルドルフ空港へ到着。ところが、全員のスーツケースが到着していないというハプニングが発生。ロストバゲージの手続きを終え、宿泊先のホテルに到着したのは現地時間 22 時前でした。ホテルでは通訳の田口さん（ドイツ在住ジャーナリスト）と合流しました。

## 2日目

ブリロン市庁舎を訪問。ブリロン市のバーチュ市長から市について紹介があり、能勢分校生からは能勢町と能勢分校についてのプレゼンテーションを行いました。次に、州政府環境省ウベさんからドイツの環境対策について説明があり、ドイツの先進的な環境への取組みを改めて実感しました。

市長の招待でランチをいただき、今回の視察の最大の目的であるブリロン市のシュタットベルケへ。ウベさん、ブリロン市教育委員会のホップさん他、多くの方の同行がありました。シュタットベルケ職員から、木材チップの保管状況、工場内でチップが熱に変わる行程などの説明を受けました。町長、町職員、生徒たちの質問に丁寧に対応いただき、シュタットベルケの全貌を学ぶことができました。

再び市庁舎へ戻り、ブリロン市主催のウェルカムパーティーに出席。

在ドイツ日本国大使館参事官、デュッセルドルフ日本総領事館領事、ブリロン市の高校生も参加し、大変な賑わいでした。生徒たちも積極的に英語でコミュニケーションを取りあいました。

## 3日目

ブリロン市の高校「ギムナジウムペトロナム」を訪問。ドイツの教育システムや学校について説明を受け、高校生同士お互いにプレゼンテーションを行いました。また、人形浄瑠璃のデモンストレーションを行い、ギムナジウムの生徒や先生方に体験していただきました。校内案内の後、授業にも参加し、カフェテリアで一緒に昼食を取るなど貴重な体験となりました。

午後は、ブリロンの森へ。ブリロン市では、子どもたちが小さい頃から森林教育を受け、自然の摂理や森の生き物について学んでいるそうです。災害で荒れた森でアメリカマツの植林を行いました。能勢での植林経験が活かされた場面でした。ブリロン市には森林課があり、専門家が日々森を守っていること、ドイツの森の歴史的な変遷についてなど、持続可能な森の政策について学びました。

その後、ブリロン郊外のディーメル湖、電力パーク、工業地区をバスで巡り、ブリロン市のツーリズムと環境保護、企業誘致のバランスの良さを感じました。

夜には、市長、副市長、市職員、ギムナジウムの校長・副校長先生、高校生が参加したディナーパーティーで記念品の交換などを行い、さらに親交を深めました。

## 4日目



実態調査最終日。能勢分校生は再びギムナジウムを訪れ、能勢とギムナジウムの生徒とでプレゼンテーションを作成し、発表と意見交換を行いました。

デュッセルドルフ在住のクロアーさん（叔母さまが能勢町在住で観光ボランティアという縁）がサポーターとして駆けつけ、大いに助けていただき、英語と日本語とドイツ語が入り交じった意見交換は、活発なやりとりとなりました。

その間一方で、能勢町長および町職員はブリロン市役所を再訪し、交通・まちづくりについて意見交換を行い、そして、ブリロン市内の他の学校を視察しました。

その後合流し、この3日間関わっていただいたすべての方々と、ギムナジウムのカフェテリアで、フェアウエルランチを楽しみました。

別れを惜しみながらブリロン市をあとにし、午後にはデュッセルドルフへ。

デュッセルドルフの730年の歴史、教会の歴史、ライン川の環境整備などの案内を受けました。デュッセルドルフはドイツで最も日本企業が多い都市で、5,000人の日本人が暮らしています。歴史と観光、大都市機能がうまく共存した街でした。

夜には州政府主催のフェアウエルパーティーがあり、州政府環境農業局長、能勢町長、日本総領事による挨拶があり、お世話になった皆さん参加のもと、この4日間を振り返りました。ホテルに戻り帰国準備をし、翌日、日本へ向け出発しました。



## 能勢町からの報告

今回のドイツ視察には能勢町から上森町長、他3名の職員が同行しました。シュタットベルケや再生可能エネルギー以外にも、能勢町で活かせるような数多くの発見がありました。

### うえもり's MIND(町長の活動日記)より抜粋

- 森を次世代に繋ぐ仕組や自然環境を守る取組、エネルギー自給への取組は素晴らしいものです。ブリロン市では町全体で使う電力の1.6倍もの再生可能エネルギーを生み出しています。また、能勢町と同じように野生鹿による被害で苦労していることも分かりました。森では気候変動へのリスク対応として、ドイツトウヒからベイマツ(米松)に植生転換をしていました。
- ブリロン市の公共交通政策及び財政状況について、ブリロン市長及び担当者と協議しました。ドイツは1,000人当たり810台と車の保有率が非常に高く、能勢町の状況と似ています。市では市内の道路ごとに交通量を綿密に調査し、交通量に応じて大型バスや小型バスを運行しており、小型バスの運転手はボランティアです。市民にはブリロンチケットを発行し、一ヶ月30ユーロ(約3500円)で乗り放題です。交通弱者に対していろいろな対策を取ってきましたが、まだ課題は多いようです。若年層の流出や定住対策についても話しました。
- 財政においてブリロン市は、1980年代から企業誘致を進め、世界有数の大企業をはじめとする多くの企業が操業しています。市内で多くの雇用を生んでいます。なぜブリロン市がそのような企業を誘致できたのか、能勢町が推進する高度産業農業や、企業誘致においても大いに学ぶべきことがあると認識しました。



ブリロンの森で植樹後に記念撮影

### 能勢町長から ~新しい町の骨格を作る~

気候変動や資源エネルギー、自然災害、山林・農地をはじめとするインフラ管理。世代を超える未来に関わる課題に対処しなければ、持続可能な社会を実現することはできません。私たちの目の前にある困難。これは、地球規模で抱える共通の課題でもあります。つまり、地域の課題に向き合い行動することが、世界を変えるチャレンジにつながります。こうした視点は、まさにSGHの取組みと合致すると思います。

今回視察を行ったブリロン市では、未来に向けて様々な取組が実践されていました。そして、本町においても長期的な視点で現状を捉え、グリーンインフラ(山林・農的資源)や地域エネルギーを賢く利用していくことが重要です。食糧やエネルギーが自給自足できる自立的で持続可能な里山モデルを能勢町から発信していきます。

## テレビ放映がありました!

9月17日(火)夕方、関西テレビの『報道ランナー』の中で「バイオマスで町の活性を 手つかずの森林利用 再生可能エネルギーに大阪の高校生の挑戦」と題し、能勢高校・豊中高校能勢分校の取組みが紹介されました。  
生徒たちが課題に一心に向き合う姿が印象的でした



このドイツ実態調査の成功には、在ドイツ日本国大使館、デュッセルドルフ日本総領事館、ノルトライン=ヴェストファーレン州政府、ブリロン市、ギムナジウム、その他スタッフの方々と多くの皆さんの熱いサポートがありました。また、ギムナジウム生からは「来年は私達が能勢に行くことができますか?」の声がありました。

この課題研究は今年で終わるのではなく、ブリロン市と能勢町の町ぐるみの交流はこれからも続いていきます。



# マレーシア サバ州実態調査報告

## ●マレーシア実態調査に向けて●

SG重点分野講座受講生の3年生を中心に、SGH継承事業であるGS課題探究講座受講生の2年生も加わり、今年一年の指導・助言を乾陽子氏(大阪教育大学 准教授)にお願いし、またアドバイザーとして、祖田亮二氏(大阪市立大学 教授)を迎え、「マレーシア 経済発展と自然破壊」についての課題研究を進めています。



祖田氏



斉藤氏

●祖田 亮二氏 (大阪市立大学 教授) 5月29日(水)・6月19日(水)

「マレーシア サバ州について・オイルパームプランテーションを考える」

●斉藤 俊幸氏 (総務省 地域再生マネージャー) 6月22日(土)

「マレーシアへ行くぞ！」

●乾 陽子氏 (大阪教育大学 准教授) 6月26日(水)・7月6日(土)・17日(水)

「マレーシア サラワク州の熱帯雨林の今・プレゼンテーション指導」



乾氏

## ●マレーシア サバ州へ●

8月4日(日)～8月9日(金)の6日間、3年SG重点分野講座受講生4名と2年GS重点講座受講生2名が「『経済発展と自然破壊』～プランテーションと森林破壊～」について、マレーシア サバ州で調査を行いました。

### 1日目

関西国際空港で斉藤俊幸先生と合流し、マレーシア航空にてクアラルンプール空港へ。現地の大学での講義のためマレーシアへ来られていた祖田亮二先生と合流。クアラルンプールを発ち、ボルネオ島 サバ州にあるコタキナバル空港へ到着しました。

### 2日目

ホテルを出発し、世界遺産のマレーシア最高峰であるキナバル山(標高4095m)へ。ここで祖田先生のお知り合いの小泉さん(インドネシア専門の地理学者)と合流しました。キナバル山中腹(標高1500m)にあるキナバル植物園は、熱帯雨林の生態を自然の姿のまま保護し展示しています。キャノピーウォークは熱帯雨林を調査するための吊り橋で、地上から30～50mの高さがあり、深い緑の原生林を見渡すことができました。

### 3日目

コタキナバルから130キロ南にある、Sawit Kinabalu工場へ向かい、オイルパームのプランテーション見学と工場での聞き取り調査を行いました。

ナーサリー(オイルパームの苗場)見学後、プランテーションでオイルパームの収穫作業を見ました。次にオイルパーム工場へ移動し、会社概要のプレゼンテーションを受けました。環境保全と経済活動について考える一日となりました。

### 4日目

農業食品工業省サバ農政局を訪問しました。サバ州農業全般の状況説明のプレゼンテーションがありました。次に、パパラ村で小農の方々にインタビューを行いました。日本でもっとパームオイルを使い小農の生活を助けてほしい、と語っていました。熱帯雨林の存続と生活に関わる継続的な、正解のない難しい課題を目の当たりにしました。

### 5日目

最終日はコタキナバルからクアラルンプールへ移動し、プトラマレーシア大学(UPM)へ向かいました。マレーシアにおけるパームオイル産業の構造について学びました。UPMの先生の講義では「熱帯雨林破壊が問題になっているが、マレーシアにとってパームオイルは国を支える大切な産業であり、産業が地域を守っている」という話がありました。マレーシア側の意見を聞くことのできた貴重な時間でした。



アドバイザーとしてお世話になっている斉藤先生、祖田先生が同行してくださるという幸運に恵まれ、さまざまな局面で一步踏み込んだ調査をすることができました。経済発展と環境保護という課題についてしっかり考えていきたいと思えます。

## SGH 中間発表・ドイツ視察(能勢町連携)報告

11月1日(金) 場所: 能勢ささゆり学園 能勢町立能勢小・中学校  
受付 10:00～ 発表 10:20～12:00 ぜひお越し下さい!